

芝浦アーバンデザイン・スクール プロジェクト

代表者	前田英寿【教授】(デザイン工学部 デザイン工学科)
構成員	桑田仁、篠崎道彦、谷口大造、大成優子(デザイン工学部 デザイン工学科)

本プロジェクトは、大学と地域が連携して都市の魅力を再発見・再検討するものであり、教育、研究、社会貢献の3つの学びを通して建築、都市、地域の未来を探る。学内外・国内外に開かれた場になるようにまちづくりの国際用語としてアーバンデザイン(Urban design)を用いた。

連携先の港区は、本学開設の地であり芝浦キャンパスの地元でもある。特に、芝浦・海岸地区は都心と港湾の間にあって運河を介して新旧が混在する独特の境界であり、東京の中心地としての商業・業務・住宅のきめ細かい環境づくり、歴史・緑・水に恵まれた環境を活かした景観・観光などの魅力創出、IT・デザイン産業や高所得住民などの新たなニーズへの対応が求められる。

2014年度は、区内を対象とした演習や特別講義を実施するとともに、韓国との国際ワークショップや空間構造の調査を行った。また、公開講座や展覧会などで地域に成果を開示した。

教育

「大学と地域の交流型演習」として、前期は港区内の都心型オフィス、後期は港区指定文化財「旧協働会館」のコンバージョンをテーマに「プロジェクト演習4・8」を実施した。本科目は卒業研究の着手条件となる実質的な必修科目であり、建築・空間デザイン領域の3年生全員約50名と留学生が履修した。

また、地域に関わる専門家を招いて8回の特別講演を行った。うち3回は学生が進行する座談会形式として、知識を得るだけでなく、主体的な参加のための工夫をした。テーマに応じて各回で約20~100名超の学生が参加した。

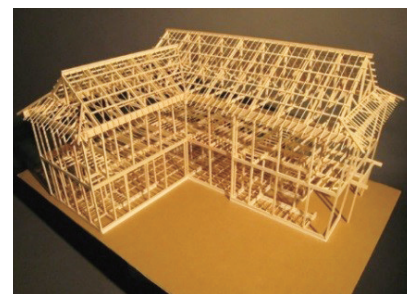


アーバンデザイン・スクールビジョン

研究

「大学と地域の双方向型研究」として、都市デザイン研究室の卒業研究生12名が、芝浦・海岸地区全街区の調査分析と公共空間デザインの考察を行い、1名が港区の街区公園をテーマに卒業論文を完成した。また、丸の内地区・台北市・徳島市・大阪市など、都心や水辺都市の視察・現地調査を実施している。

新たな試みとして、韓国中央大学校と本学の学生各8名による合同ワークショップで、芝浦・海岸地区に対する提案を行った。全て英語で行い、8日間の集中開催後に、地元自治会・協議会を交えたプレゼンテーションを行った。ワークショップの成果は各自が精査し、TV会議による最終成果物の相互発表、報告書として取りまとめを行った。



港区指定文化財「旧協働会館」軸組模型

社会貢献

「多世代共学の推進」として、芝浦キャンパスで5回の公開講座を行った。住民、企業、自治体、学生など各回約25~50名の参加があり、アンケート満足度も86~93%と好評であった。その他、地域と共催した公開講座、各自治体での講演、港区委員会への出席なども行った。

上記の教育や研究の成果は、玄関ホールで展覧会を行い、地域に還元した。また、ホームページでも逐次活動を紹介しているほか、地元の協議会に出席して定期的に取り組みの予告や報告を行った。「芝浦運河まつり」に出展・参加するなど、地域との交流も推進した。



韓国中央大学校との合同ワークショップ